

令和4年度神戸市人と猫との共生推進協議会 第1回定例会議録

1. 日 時

令和4年6月1日（水）14：00～16：00

2. 場 所

神戸市勤労会館4階特別会議室（中央区雲井通5丁目1-2）

3. 出席者

- (1) 構成団体11団体の内8団体出席（委任状1団体）

※規約第6条第2項の規定により会議成立

- (2) 出席者氏名 別紙名簿のとおり（一般傍聴者0名）

4. 議 事

【協議事項】

- (1) 令和3年度事業報告

・野良猫の繁殖制限事業（不妊手術2,117匹、給餌・糞尿等に関する指導助言（TNR事前調査等で餌やりの啓発）、譲渡の推進（16団体の譲渡会情報提供）、募金活動、各種イベントの後援等について事業報告

- (2) 令和3年度決算報告

・収入20,484,250円（市補助金13,837,763円、繰越金865,445円、寄付5,780,980円、雑収入62円）
・支出19,270,449円（野良猫繁殖制限事業費18,230,958円、給餌等指導助言費88,500円、猫の譲渡推進事業費20,690円、定例会議費38,550円、事務費766,751円、保険料125,000円）
・繰越金1,213,801円について報告

- (3) 令和4年度事業計画案

・3年度同様、野良猫の繁殖制限事業、給餌・糞尿等に関する指導助言、譲渡の推進等を実施。野良猫の不妊去勢手術は1,850匹

- (4) 令和4年度予算案

・収入17,210,000円（市補助金13,219,000円、繰越金1,213,801円、募金・寄付2,777,199円）

- ・支出 17,210,000 円（野良猫繁殖制限事業費 16,202,000 円、給餌等指導助言費 90,000 円、猫の譲渡推進事業費 120,000 円、定例会議費 66,000 円、事務費 500,000 円、保険料 132,000 円、予備費 100,000 円）

※協議事項 (1) ～ (4) についてはいずれも承認

【報告事項】

(1) 過去 5 年間 (H29～R3 年度) の各種集計結果について

- ・不妊手術総計は、10,291 匹で、H30 年度を除き、年 2,000 匹以上の手術を実施している。また、不妊手術の新規支援申込件数は、過去 3 年ではいずれも 150 件弱で、変化はない。今後、新規支援の地域数が減少し、さらに過年度支援地域の不妊手術数も減少すれば、事業の効果が表れたと評価できる。
- ・区別では、支援地域数、不妊手術数とも長田区が最も多く、手術数では、垂水、西、北、須磨の順になっている。逆に灘区は、支援地域数、手術数とも最も少ない。
- ・支援申込、情報提供に基づいて、不妊手術を実施しているが、支援申込に対しては 99% 以上対応できている。一方、情報提供に対しては、約 28% が未対応であり、今後の課題になっている。予算の執行状況も踏まえて、取り組んでいきたい。

(2) 神戸市の条例取り組み状況について

- ・猫の引き取りは、協議会の繁殖制限事業ともあいまって、年々減少しており、また、昨年 10 月にオープンしたこうべ動物共生センターでの猫の譲渡の推進により、殺処分数も減少している。
- ・共生センターでのわんにゃん譲渡会には多くの方が訪れ、昨年度の猫の譲渡数は、25 匹であり、半年余りで、前年度の実績を上回っている。

【主な意見等】

- ・他都市で保護活動をしているボランティアから、神戸の条例の評価が高い。他都市では、規制が盛り込まれているが、神戸では一切ない。不妊手術では、継続して TNR を実施している地域が多く、管理がしっかりできている。(猫ネット)
- ・決算、予算には、人件費等事務局の運営にかかわる部分が計上されていない。監査の結

果ではそれらも含めて、適正に処理されていたが、今後は事務局運営費も計上するのが好ましい。(監事)

→今後検討していく。

・市民が、猫の引き取りを動物管理センターに相談すると、殺処分もあるといわれ、躊躇する。殺処分か譲渡か、その基準を明らかにしてほしい。(猫ネット)

→市民が納得できる基準を検討していく(市)

・安楽死の判断は難しい。海外では、複数人で判断するとともに、心のケアもしている。TNRが進むと、子猫の保護が減少する。そうすると相対的に、譲渡では成猫が増える。一般には、子猫を譲渡で希望するケースが多いが、今後、殺処分を減らすためには、もっと成猫の譲渡を増やす必要がある。高齢の猫と暮らせるメリットを、福祉関連部局と連携し、PRしてほしい。(動物福祉協会)

→正しい猫との共生の仕方などの啓発は重要であり、企業としてかかわれる分野でもあり、協力していきたい。(あいおいニッセイ同和損保)